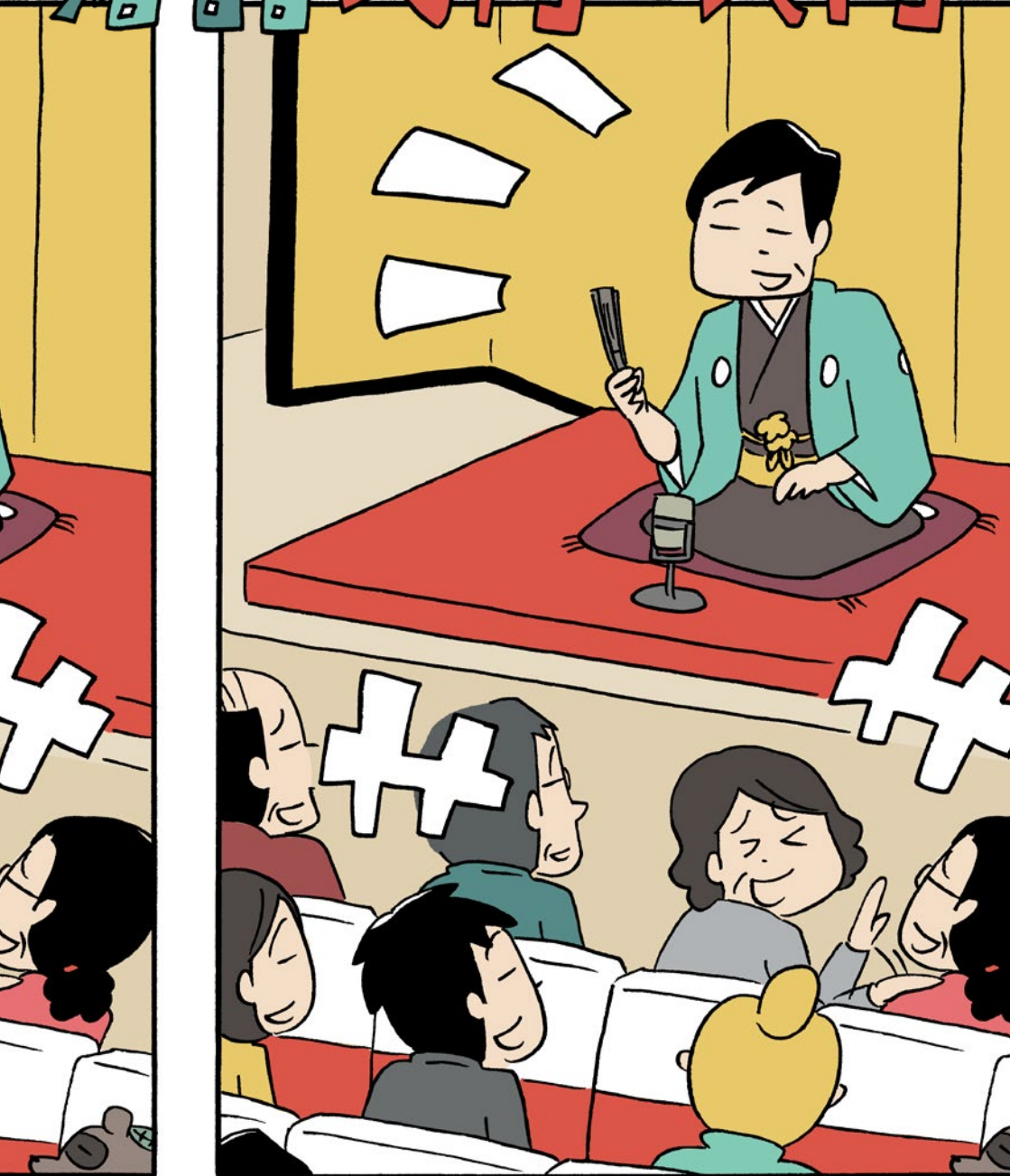


落語入門の入門



1	入門の入門 そのまえに	12	入門の入門 その5
2	入門の入門 その1		桂塩鯛さんに聞く
	笑福亭たまさんに聞く	13	落語と京都
	落語の魅力って		入門の入門 その6
	何ですか？		女性落語家として生きる
4	入門の入門 その2		桂一葉
	マンガ	14	入門の入門 その7
	そうだ！ 寄席に		落語のなかに広がる世界
	行つてみよう		釈徹宗
	辻井タカヒロ	16	入門の入門 おわりに
8	入門の入門 その3		落語ブックガイド
	みうらじゅんさんに聞く	17	いざ入門
	落語はここが面白い！		落語を観るなら
10	入門の入門 その4		
	上方落語と江戸落語		
	落語ズームアップ！		



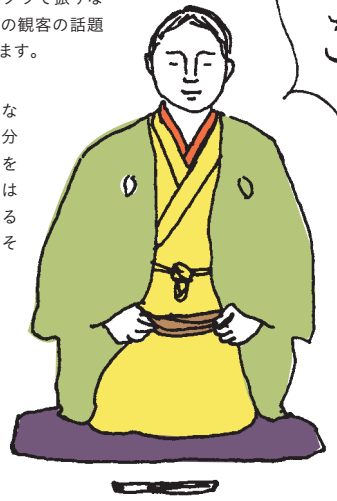
ハロー、落語！
そのまえに…

「落語はお年寄りが聴くもの」「なんだか言葉が難しそう」……そんなふうに思っていますか？

落語のルーツは、300年ほど前の江戸時代まで遡ります。「古典芸能」「伝統芸能」と呼ばれる芸能の一つですが、大衆芸能として市井の人びとに親しまれてきたもので、決して難しい芸能ではないのです。

この「落語入門の入門」は、すこし興味がある、でもよくわからないし……という人に向けた、入口のさらに入口になるための冊子です。

落語ってこんな芸能!



演者はただ一人。高座(寄席の舞台)の真ん中で正座をして噺を語るといふ、とてもシンプルな話芸です。歌舞伎などのほかの伝統芸能と異なり、身振り手振りのみで話を進め、一人で何役も演じます。落語のネタのことを「噺」といい、噺の最後に「オチ」がつくのが特徴です。

噺に入るまでのウォーミングアップ。日常の出来事などの話題をマクラで振りながら、その日の観客の話題の好みを探ります。

マクラ

落語の場合、「話」ではなく「噺」といいます。10分程度のものから、1時間を超えるものまでその長さはさまざま。現在口演される演目は300以上あるのだそう。

はなし 噺

落語の一番最後を締めくくると重要な部分のことで、落語の大きな特徴です。シャレで終わるものや、噺の中に伏線が張られているものなどさまざま。

オチ (サア)

「落語家」のはじまりは江戸時代

江戸時代の1680年頃、当時すでに大きな都市であった京都、大坂、江戸でそれぞれに「落語家の祖」と言われる人物が現れます。京の四條河原や北野天満宮の境内で活躍したのが露の五郎兵衛。大坂の生國魂神社の境内ではじめたのが米沢彦八。江戸のお座敷で評判を得たのが鹿野武左衛門です。いずれも聴衆から料金を取っており、噺をすることを職業としていました。それから寄席(演芸が専門に行われている劇場)が生まれ、落語ブームが巻き起こったりしながら、300年以上続いていきます。

落語の
魅力って
何ですか？

笑福亭たま
さんに聞く

大阪を拠点に活動し、若手囃家グループなどの賞を受賞するなど実力派として人気が高い落語家・笑福亭たまさん(43)。京都大学在学中に落語に魅了されたというたまさんに、その魅力を伺いました。

落語は就活直前に初めて聴いた

落語を初めて聴いたのは大学生のときです。たしか4回生になる直前やったかな。就職活動が迫っている時期で、テレ

(桂)三枝兄さん(現・文枝)のそこ行ったらどないや」と言われましたけど(笑)。

なぜ芸人から落語家になる人がいるのか？

月亭方正(元・山崎邦正)さんや桂三度(元・世界のナベアツ)さんなど、芸人として活躍されていた方が落語家に転身されたりもしています。千原ジュニアさんなど、落語好きの芸人も多いですね。これはなんでかというのと、「俺の方がもっと面白くできる!」と思ってるんじゃないですかね(笑)。落語は同じネタでも数種類の台本があって、なおかつ同じ台本でも笑わせる技術でナンボでも変えられる。ある意味、映画と一緒にですね。同じ脚本でも、監督によって作品の持ち味が変わるでしょう。原作があって、脚本、監督、俳優と全部できるのが古典落語なんです。方正さんやたら方正さんの演出方法、というふうに行けるから、芸人の人もやりたがるんじゃないかね……まあ本人やないから知らんけど(笑)。

ビが好きだったので、表に立つ側になるか、ディレクターのような裏方仕事をやるかと考えてました。「笑う」ということが好きやったんですけど、当時はまだ「ピン芸人」というのが今の世にいなかった。落語は知っていたけれど全然聴いたことがなくて、「年寄りが聴くもんじゃない」と思っていました。そやから、「こっちをやってる人は少ないんじゃないか」と思ったんですよ。まったくそんなことはなくて、落語家がつっぽい数おるというのを後で知るので(笑)。

落語が使ってるのは「古い時代の言葉」やないんです

「落語って今は使っていない古い時代の言葉を使って、よくわからへんのとちやうか」と思ってる人がいると思います。でもそうやなくて、実は古い言葉に聞こえるような言葉をしゃべってるだけなんです。

時代劇も、江戸時代に実際に使われていた言葉をしゃべっているわけではないですよ。落語は師匠から習いますが、師匠は大師匠に習ってるから、ようするに弟子は自分の師匠の師匠の言葉を伝承される。師匠は必ず、「これはわからんよなあ」というものは変換して伝えるので、弟子は大師匠の台本を師匠が翻訳したものを教わり使ってる言葉は、ちょっと古くても理解できる言葉なんです。それやったら、そんなわからへんことないでしょ。

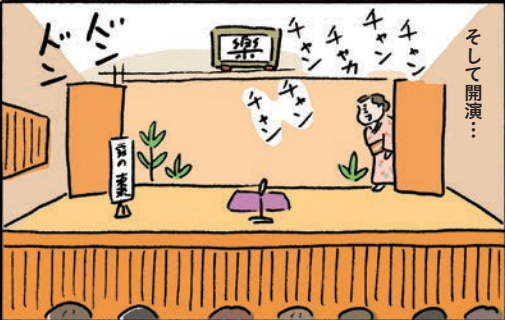
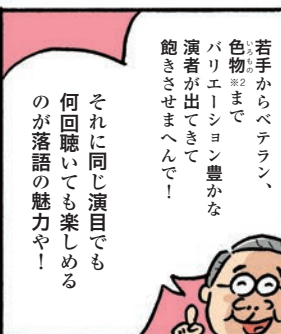


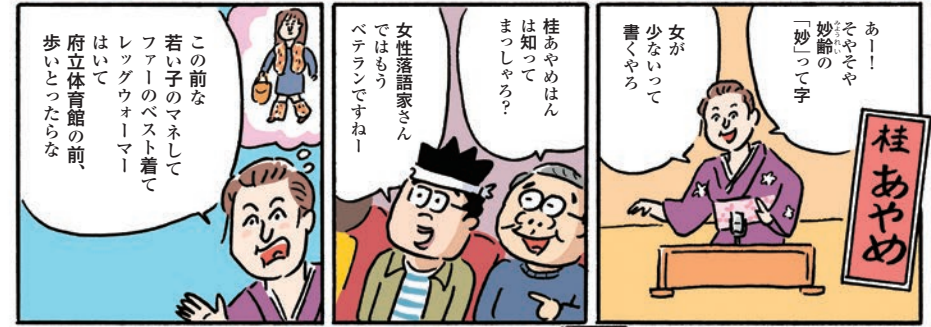
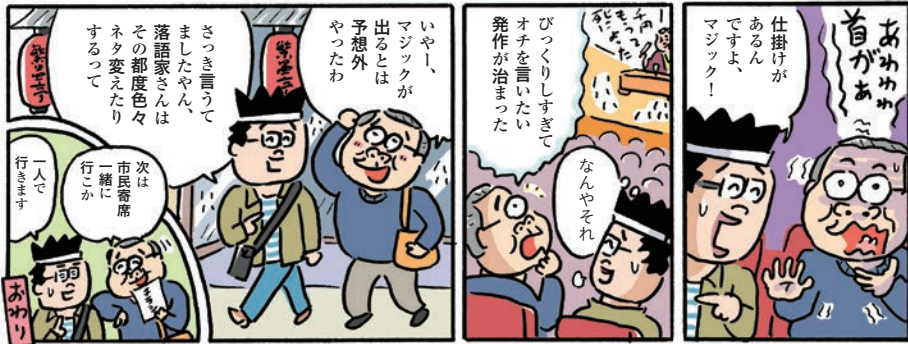
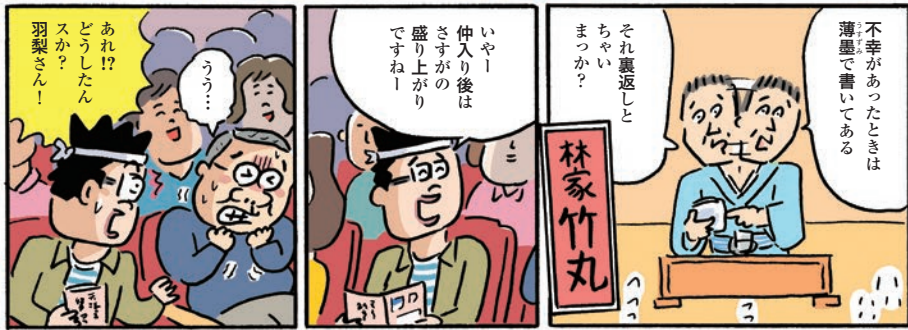
笑福亭たま
1975年生まれ。大阪府貝塚市出身。京都大学経済学部卒業後、笑福亭福笑に入門。関西のみならず、全国で独演会を行っている。

写真：浜田智則

にない笑いがあるんです。ライブやからライブでしか味わえない笑いがある。テレビに出てる落語家さんでも、ライブでも面白い人と、ライブでは面白くない人がいます。ほんで、ライブでこんなに面白いんですけどテレビには出ていない人がいる……ということに気がついたりね(笑)。

める、というのが僕の特論です。「笑うってなんや」を逆算したら、人は人が困っているのを笑うんですよ。ほなら、何に困ってるかを想像するには、人生経験があるんですよ。人間関係のトラブルを一定量理解しないと笑えないんです。「大人のツラさ」の基本形を知っているのが30くらいやないかなと思いますね。人は悲しみが多いほど深く笑えるのかもしれない(笑)。ただ、落語は10代や20代の人にも面白い台本はたくさんあります。計算ドリルと一緒に、小学1年生用や中学1年生用というのもあるんですよ。とにかくまずは、生で3回見てほしいですね。繁昌亭の昼席に3回行って面白くなかったら、もうそれは縁がなかったということですよ(笑)。





落語はこことが面白い!

その3
入門の入門

みうらじゅんさんに聞く

京都市出身で、落語にも造詣の深いみうらじゅんさん。仏像をはじめ、世の中のあらゆることを独自に楽しむ、みうらさん流の落語の楽しみ方を伺いました。

落語家はアイドルだった

落語を好きになったのは、小学5年生のときに深夜ラジオで聴いた、笑福亭仁鶴さんのDJがきっかけなんです。夜の11時頃から始まるので、そのラジオを聴いた翌日は、授業中ずっと寝てました(笑)。当時、仁鶴さんは歌も歌っておられて、「おばちゃんブルース」や「大発見やア!」なんて歌が大好きでした。そこから「仁鶴古典大独演会」というカセットを買って本格的に落語にハマりました。「初天神」がめっちゃ面白くてね。でも、オープニングは聞き取れないんです。なぜかっていうと、仁鶴さんはアイドル

下世話なネタなんですけどね。高尚さのカケラもなく笑えるんです。庶民的というか。こういう落語は高座で聴くよりは、寝るときの枕元のカセットデッキでイヤホンをしてニヤニヤ聴くのが大好きでした。中学生になってからは、ちょっと大人な内容の「艶笑落語」のカセットなんかも買ってね。それが今、「週刊文春」で連載している「人生エロエロ」の原点です。

枕元の米朝

とはいえ僕、そういうコテコテの関西が少し苦手です。東京へきたところもあるし、でも江戸落語の「粋」という意識は今でも馴染めなくて。その中間をやっておられたのが桂米朝さんなんです。

米朝さんの落語全集にハマって、旅先のパリでも聴いていたんですよ(笑)。目を瞑りながら聴いていると、本当に映画を観ているみたいに、江戸時代のビジョンが見えるんですよ。あと、米朝さんの声って、とても気持ちよくなる周波が出てくる気がするんです。一度米朝さん

だったから、「きゃ〜〜!! 仁鶴〜〜! 仁鶴〜〜!」という黄色い歓声しか入ってないわけなんです。そういうジャーニー状態になる落語家さんは、仁鶴さんがハシリだったんですね。

関西の落語は

脱・芸術!?

上京してから、東京の人に落語の話をすると、「こっちは志ん生がいるから」って必ず言うんですよ。お笑いは関西が本場だけど、落語は譲れない、みたいなところがあるんでしょう。お笑いに貴賤はないと思うんですが、どうも東京の落語には、「芸術」だという意識が強いような気がします。

たとえば、六代目笑福亭松鶴さんが得意としていた「有馬小便」と

にお会いしたときに、「大変恐縮なんですけど、米朝さんの落語、本当に寝やすいんです」と言ったら、「もう1人、前にそれを言う人がいたな」と言われて。それが司馬遼太郎さんだったんです(笑)。でも寝るために聴くわけではなくて、米朝さんの落語は、うまくて面白い。だから何度も聴けるし、枕もブツ飛んでいるんです。マイケルジャクソンの話をされるカセットもあったんですけど、そこから本ネタの長屋の話に持っていくまでが絶妙にうまいんです。他にも「夏の屋下がり」に、どっからともなく気持ちいい風が吹くのを極楽の余り風と、昔の人は言うたもんです」とおっしゃる枕があった、もうその「極楽の余り風」というフレーズにグッときて、同名のエッセイを書いたこともありました。

お勉強で聴き始めると

もったいない

落語は入り口が肝心ですよ。「名人だから」でおすすりされて、お勉強みたい

いう上方落語の演目。簡単にあらずじを話すと、江戸時代、便所が2階にはないのでわざわざ1階まで降りなくちゃいけなかったよう。それが面倒くさかった。それで、うまいこと考えたやつが、物売りみたいに「しょんべん屋」を名乗って長い竹筒を持ってくるんですよ。それで2階の窓から竹筒に、「じょんべんじょんべんじょんべんじょんべん」っておしっこしてもらおうっていう、

な感じ
で聴き始めるとも
つたない。
「名人」と言われて聴いて面白くなったから、もう二度と聴かなくなるでしよ(笑)。あくまで娯楽として楽しめばいいと思うんです。

みうらじゅん

1958年生まれ。京都市出身。武蔵野美術大学在学中に漫画家デビュー。以来、漫画家、イラストレーター、エッセイスト、ミュージシャンなどとして活躍。著書に『アイデン&ティティ』『色即ぜねれいしよん』『マイ仏教』など多数。

僕、仏像も小学生の頃から好きなんですけど、なんの予備知識もなしに東寺の密教仏を観てグッときたんですよ。国宝だからとかと関係なく、「かっこいい!」と思って観ていたんです。
なんなら、「寝られへんのやったら、これ聴いたら?」と、米朝さんのカセットをみんなに渡していきってという役をしたもんです。何回も何回も聴いていけば、不眠症も治るんじゃないかと(笑)。

上方落語 と江戸落語

大きく2つに分かれています

落語は、江戸時代ほぼ同時期に京都・大坂・江戸の三都市で始祖が現れ、始まりました。それぞれで発展してゆき、今では大きく「上方落語」「江戸落語」と2つに分かれています。

たとえばこんな落語家さんがいます

上方落語
京阪神の落語のことを総称して「上方落語」と呼んでいます。神社の境内で滑稽噺をし、銭を得るという「辻噺」をおこなっていたことが始まりです。神社に参拝に来た、道行く人の足を止めなければならなかったため、「小拍子」のような音の出る小道具を使っていました。今もその名残で、上方落語でしか使われていない小道具があります（左ページ参照）。登場人物によって大阪ことばや京ことばを使い分けて演じ、標準語はあまり使用しません。戦後、「上方落語は減んだ」と言われるほど人気落ち込みましたが、「上方落語四天王（米）」と呼ばれる4人の落語家の出現や落語ブームなどで持ち直し、今では上方だけで200人を超える落語家が活動しています。定席として、天満天神繁昌亭（大坂）、喜楽館（神戸新開地）があります。

桂文枝（元三枝）、桂ざんば、桂南光、笑福亭鶴瓶、月亭八方など

たとえばこんな落語家さんがいます

江戸落語
江戸・東京の落語のことを「江戸落語」と呼んでいます。さまざまな屋敷に招かれて、お座敷芸として噺を披露していたことが始まりです。障子や襖で区切られた空間で、はじめから話を聴きに来たという人が対象のため、鳴り物は使用せずじつくりと聴かせる噺が主流。

上方と江戸では演じられる噺も異なり、大坂でできた噺が江戸に移っていったものが多い。たとえば上方落語での「時うどん」という有名な噺は、明治時代に三代目柳家小三さんが東京に移し、「時そば」という噺になったと言われています。東京ではあまりうどんは食べなかったため、うどんをそばに変えたのだそう。

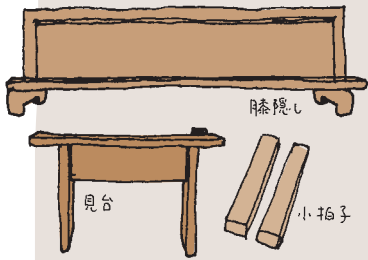
東京には4つの定席があり、800人ほどの落語家が活動しています。

立川志の輔、春風亭昇太、三遊亭小遊三、立川志らくなど



上方落語のはじまりは、言わば「大道芸」。道行く人の足を止めるためにさまざまな工夫がなされており、そのなかで上方落語だけで使われる小道具も生まれました。

上方落語だけ!



膝隠し、見台、小拍子

辻噺から始まった上方落語は、当初から見台を小拍子で叩いて往来する人の足を止めたと言われています。見台を小拍子でひと打ちすることで、場面転換や時間の経過を表すことができます。噺によっては、見台は小机やまな板、小拍子は格子として使われたりすることも。また膝隠しは、動きの多い噺で、乱れた着物から脚が見えてしまう……なんて見苦しいことにならないためにあるもの。小道具を隠しておくこともできます。膝隠し、見台、小拍子は3点セットとして使用され、噺によって使わない場合も多いです。

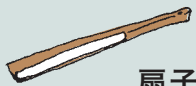
寄席噺子

噺家が高座に上がるときに鳴る出陣子や、落語の途中に演奏して効果を出す「ハメモン」と呼ばれるお囃子などを総じて寄席噺子と呼びます。江戸時代、芸能の花形だった歌舞伎の影響を受けて発展したものとされており、三味線、笛、太鼓、当り鉦などの楽器が使用されます。

お茶子

寄席では一席終わると、噺家が入替わる合間に、座っていた座布団をひっくり返し、着物の羽織などを片付け、「めくり」をかえすという流れがあります。上方落語でこの一連の流れを担っているのが、お茶子と呼ばれる女性。江戸落語では前座の噺家が受け持っています。噺家の着物の色や、そのあとかかる噺にあわせて座布団の色を変えたりすることも。

上方・江戸と共通



扇子

落語に必須の小道具。扇子を閉じて舟を漕ぐ棹や煙管（キセル）、少し開いてそろばん、大きく開いて盃（さかずき）など、さまざまなものに見立てて使います。扇子を閉じたまま箸のように見立てているのを見たことがある人も多いのでは。

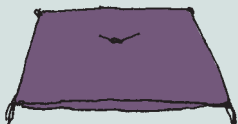


手ぬぐい

落語に必須の小道具。手ぬぐいをまるめ、めくっていくことで焼き芋に見立てたり、財布や手紙、本、タバコ入れなどに見立てて使われます。手ぬぐいは噺家にとって名刺がわりでもあり、個性豊かなオリジナルの手ぬぐいを作成しています。

めくり

現在の出演者名を書いた紙製の札のこと。寄席では「寄席文字」と呼ばれる独特の太い筆致の文字で、専門の職人によって出演者名が書かれています。



座布団

舞台の真ん中に座布団を敷くというのが高座のしつらいです。定席の舞台裏には、色違いの座布団が用意されています。お茶子さんに「今日はこの色の座布団を使って」とリクエストする噺家もいるそう。

京都と落語

桂塩鯛さんに聞く

はじめは「市民寄席」

初めて落語を聴いたのは高校3年生のとき。友だちに誘われて、当時京都都会館で行っていた「市民寄席」に行きました。ちょうど落語ブームのときで、超満員だね。桂米朝師匠が出ていて、「す〜いなあ」と惹きつけられたのが落語を好きになったきっかけです。それから大学へ入ったんですが、ほぼ落語研究会のために大学に行っていました(笑)。「落語家になりたいな」というのはぼんやりと思っていただけ

ど、父親が明治生まれのカタイ人でね。落語家や芸人になるなんて言う絶対に対抗される。でも、いざ就職を考えはじめるとき、父親が亡くなったんです。毎日決まった時間に同じ場所に行って働くというのが想像できなくて、やっぱりサラリーマンになるのは嫌だった。それでもう、3回生のときに大学を辞めて、落語の世界に入りました。

生まれも育ちも京都で、大学まで京都で過ごしました。今は京都には住んでへんけど、毎月、京都のどこかで落語会をやっていると思います。仁和寺や、宝ヶ池、北山あたりの雰囲気落ち着いていて好きですね。京都が出てくる落語の噺はけっこういろいろあります。「〜どす」という語尾や京ことば、お公家ことばも出てきて面白いですよ。少し丁寧で、上品な感じに描かれていることが多いですね。

いろいろあります! 京都が出てくる 落語の噺

京都一の目利きと名高い茶道具屋・金兵衛(通称・茶金)が、清水寺音羽の滝の茶店で茶を飲んでいたら、茶碗のひとつをこねくり回し、しきりに「はてな?」と首をかしげていた。それを見ていた油屋は、「あの茶金が注目するからには値打ちものにちがいない」と、しぶる茶店の主人からすったもんだの末奪うように手に入れるのだが……。塩鯛さんもよくやる噺だそう。

京の茶漬の

京都の町では、用事をすませて帰ろうとする客人に「ちょっとお茶漬けでも」とよくお愛想を言っていたそう。それを知ったある大阪の男が、いっぺんあの茶漬けを食べてみたれと京都の知人宅にやってくる。応対に出た女房に、あの手この手で食事を出すように要求するが……。大阪人から見た京都が垣間見える。

桂塩鯛 かつら・しおだい
京都市生まれ。立命館大学経営学部を中退し、1977年、桂朝丸(現ざこば)に入門。2018年京都府文化功労賞受賞。芸歴41年のベテランで、3人の弟子を持つ。

写真:佐々木芳郎

三十五

伊勢参りの帰路、京都見物を終えた喜六と清八。伏見街道を下り、寺田屋の浜から夜船に乗って大坂へ帰るまでを描く大作。「京都の街をスケッチしていく噺なんですわ」と塩鯛さん。

女性 6 入門の入門

落語家として生まれる



落語家は、圧倒的に男性が多い世界です。でも「落語は男がやるもの」という時代は過ぎ去り、最近は女性の落語家さんも増えてきています。若手女性落語家・桂二葉さんにお話を伺いました。

落語に興味をもったきっかけは、高校生のときにテレビで見た笑福亭鶴瓶さんでした。それから鶴瓶さんの追っかけをするようになって、そこから落語も聴きはじめました。初めて聴いた落語は、露の都さんが主宰していた「スーパール落語」(※)での鶴瓶さんの「死神」やったと思います。露の都さんは女性初の落語家さんで、そのときに初めて、落語の世界にも女の人がいることを知りました。

私、中学生のころはす〜い地味で、廊下を走れる人に憧れていたんです。楽しそうにはしゃいで、ええなああって。人前でアホなことをやっている人への憧れもあって、若いころは髪型をよく変えたり、髪の色を緑にしたりピンクにしたりしていました。そんな憧れはありつつも、大学を卒業後は一般企業に就職。でもやっぱり断家になりたいと思って会社を辞めて、桂米二師匠のところへ弟子入りをお願いに行きました。すると師匠は私の顔見ると、頭ばかり見てて……全然目を合わせてくれへんと思っただら、当時の私の髪型、アフロやったんです(笑)。はじめは、「女性の弟子はとらん」と断られました。何度か通ってなんとか弟子に

落語は何百年の間、男の人がやってきて、男の人によってつくられてきたので、女の人やると不自然なところも多いです。違和感だらけで、そうするとお客さんは笑いにくい。宝塚の歌劇を男がやる、みたいな難しさがありますね。あと、女の人はアホになりにくい、と感じることがあります。過去に、好きな人が寄席を見に来てくれたとき、「私、何してんのやろ」みたいに思ってしまったこともありました。本当に入門したての頃ですけれどね。めちゃめちゃ緊張して早口になって、20分の演目が13分で終わっちゃった(笑)。

ただひよっとすると、子どもの役は、男の人よりやりやすいところもあると思います。でもそれだけではなく、難しい落語にも挑戦して、何でもできるような腕がないとあかんなと思っていて。だからこそ、上手になりたいんです。ぶつちぎりのアホになりたい。もっと技術を磨いていきたいですね。そして1000年後には、女の人が落語をしているのが普通になっているような流れを、今からちょっとずつでも作っていききたいです。

桂二葉 かつら・によ
1986年生まれ。大阪市出身。京都橘大学文学部卒業。一般企業に就職の後、2011年に桂米二に入門。

(*) 初めての人でも楽しめるように、映像や演出なども用いて、ライブハウスなどでも行う落語

落語のなかに 広がる 世界

入門の入門
その7

釈徹宗

京都に
「落語の祖」がいた！

落語は「笑い」だけではなく「語り」を
楽しむものなので、泣かせるものもあれ
ば開心させるようなものもあります。一
番大きな特徴は、最後に「サゲ」と言わ
れるオチがつく「落とし噺」であるとい
ろですね。これは実は、お説教で長く使
われてきた技法です。仏教の話ばかりを
しているとなかなか聞いてもらえないの



釈 徹宗 しゃく・てっしゅう
1961年生まれ。宗教学者、如来寺住職。相愛大学人文学部教授。『落語に花咲く仏教』など著作多数。テレビ番組「落語でブッダ」(NHK Eテレ)なども担当。

の祖」と呼ばれているんですよ。お説教の中のおおかし「中おかし」だけが飛び出して、落としの原型になったということですね。

で、少し落としし噺を入れて、笑わせたり泣かせたりする「初めしんみり、中おかし、しまい尊く」という極意がありまして。この「中おかし」を膨大に知っていた安楽庵策伝さんというお坊さんが、話をまとめて「醒睡笑」(全8巻)という本にしています。策伝さんは京都の新京極通にある誓願寺の法主をしていた人で、「落語

は、お芝居風に語りが進んでいくということ。落語と似た芸能に「講談」というものがあります。講談だと「山の稜線が黒々と見えて、そこに真っ

赤な夕日が沈み……」と描写をするんですが、落語は「見なよ、お日さんが沈むよ！」というふうな、会話で進めていくんですよ。これは、歌舞伎などの影響があるとされています。

伝統芸能はつながっていくもの

落語を聴いていたら、浄瑠璃が出てきたり、歌舞伎を知らないとも楽しめない噺があったりします(＊)。お能・狂言につながる部分もあり、講談のネタも多いです。落語に限らず、伝統的なものは「すべてがつながっている」のですよね。お茶を一所懸命やっていたら、お華が気になっってくる。掛け軸にかけてある禅の言葉が気になっってきたりもします。落語にも「茶の湯」などお茶が出てくる噺もありますね。楽しめば、次の扉が待っているわけです。

次々とつながっていくのが伝統的なものの良さで、これは新しいものにはないんです。つながりが根を張っていくためには、どうしても時間が必要なものです。だから長い間かかって築き上げてきたものは、次々とつながっていく喜び

があります。我々の知性や心は、何かと何かがつながること自体が喜びなんです。身体もそうですよね。手と手をつないだら、つないだ温かさに救われることってあるでしょう？ 知性もそうで、つながる喜びがあるんですよ。扉はどこから開いてもいい。落語から入って、歌舞伎や浄瑠璃と広がっていくのは楽しいですよ。

(＊)浄瑠璃や歌舞伎など芝居が題材になっている落語を「芝居噺」といい、「蛸芝居」「蔵丁種」などの演目があります。

伝統芸能は「自分でチューニングを合わせる」もの

人間は強い刺激だとすぐに飽きちゃうのですが、伝統的なものは発する刺激がそもそも弱いので飽きないんです。ただ、弱い刺激をキヤッチするには、こちらの心と身体を鋭敏にしなきゃいけません。普段は私たちは「自分」というものを守るためにバリアを張っているんですが、バリアを張ったままだと弱い刺激をキヤッチできないので、バリアを外す。細かな刺激にこちら側からチューニングして、うまく波長が合うと喜びがある。

そんな楽しみが伝統的なものにはあります。このチューニング能力は、芸能だけじゃなくて生きていくあらゆる場面で重要です。他者の痛みやチューニングする能力や共感する能力も大切ですが、都市で暮らしていると共感能力を下げざるを得ません。都市でそんなに鋭敏に暮らしていたら生きていけないでしょう。気がつかないうちにチューニング能力を落として暮らしているんですよ。伝統芸能の場に身を置いて、バリアを外して能力をあげるというのはとても大切な時間なんです。

落語は、普段から人をあたたかい目で見ている人のほうが楽しめますよ(笑)。落語には基本的に、立派な人は出てきません。それを非難や排除をせずに、「そんな人おるよねえ」「自分もそんなところなな」とあたたかく笑うというか、それが良さでもありますね。なので、人間観察や自己分析、他者観察のようなことが、落語を楽しむコツになってくるかもしれません。はじめはうまくいかなくても、何度か聴いているうちに、だんだん心と身体のチューニングもあつてくるものですよ。

落語ブックガイド

RAKUGO BOOK GUIDE

これで「落語入門の入門」もおわり。
最後に、より落語を楽しむために、
おすすめの本たちをご紹介します！



『昭和元禄落語心中』
雲田はるこ（講談社）

昭和最後の大名人・有楽亭八雲に、元チンピラ・与太郎が押しかけ弟子入り志願をするところから始まる物語。江戸落語の粋を感じます。全10巻。



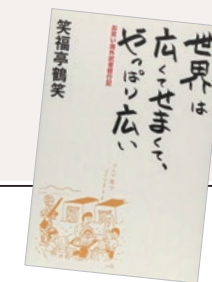
『しゃべれどもしゃべれども』
佐藤多佳子（新潮文庫）

気が短い若手落語家・今昔亭三ツ葉は、ひよんなことから訳ありでうまく話せなくなった人たちに落語を教えることになって……。じんわり心が温まる小説。



『上方落語史観』
高島幸次（140P）

古典落語が創作された当時の食べもの、娯楽、住まいなどの生活の様子から、遊郭での遊びやトイレ事情など下世話な話まで。上方落語のネタから、大阪、そして日本の歴史を学べる一冊です。



『世界は広くてせまくて、
やっぱり広い!』
笑福亭鶴笑（ヨシモトブックス）

24歳で6代目笑福亭松鶴に弟子入りし、もがきながら生み出した「バベット落語」で世界中を笑わせる！40代で海外移住し、「国境なき芸能団」としてイラクまで訪れる姿はカッコいい一言。

いざ
入門

落語を 観るなら

これまで落語を楽しむためのあれこれをお伝えしてきました。これで入門のための準備はパツチリ。では、いざ入門！というところで、実際に関西で落語を観られる場所を紹介していきます。



上方落語の落語会の情報は、「上方落語協会」ホームページまで！
<https://kamigatarakugo.jp>



第339回市民寄席
～三喬改メ七代目笑福亭松喬襲名披露公演～
撮影：佐々木卓男

市民寄席

昭和32年（1957年）から続く、京都市主催の伝統ある落語会。現在はロームシアター京都を主会場に、定期的で開催しています（年5回）。毎回、若手からベテランまで多彩な顔ぶれの落語家が出演。チケット代も2000円前後と行きやすいので、初めて落語を聴くという人にもおすすめです。
主催：京都市、ロームシアター京都 ☎075-771-6051
京都市左京区岡崎最勝寺町13

◎市民寄席 豆知識

これまで市民寄席で演じられた噺ランキング（第1回～第343回）

1位	「崇徳院」	19回
2位	「植木屋娘」 「野崎詣り」 「親子茶屋」	18回
5位	「子ほめ」	17回

※第1回には、後に上方落語四天王と呼ばれる、四代目笑福亭枝鶴（襲名後：六代目笑福亭松鶴）、三代目桂米朝、三代目桂小文枝（襲名後：五代目桂文枝）、二代目桂福團治（襲名後：三代目桂春團治）が、全員出演！

京都で落語

京都には定席（常設の寄席）はありませんが、寺院神社や食事処など、実はさまざまなお店で落語会が開催されています。行きやすい価格帯の会も多いので、小まめにチェックしてみてくださいね。



大阪

てんまてんじん はんじょうてい 天満天神 繁昌亭

戦後、落語専門の定席がなかった関西に、2006年9月に60年ぶりに誕生した定席。大阪天満宮の敷地内にあります。落語を中心に、漫才、俗曲などの色物芸の興行が連日執り行われています。
大阪市北区天神橋2-1-34
電話：06-6352-4874

●昼席 毎日13時～16時ごろ

メインの定席寄席公演。落語8～9席、色物(マジックや漫才など、落語以外の芸)1～2席の寄席公演です。出演者は週替わりで、若手からベテランまでが入れ替わり立ち替わり登場します。寄席に初めて行くなら、まず昼席に行ってみるのがおすすめ。

●夜席

独演会や一門会など各落語家が主催する会を中心に、独自企画の番組も。開演時間や料金、内容は日替わりです。

落語の公演を毎日やっている
落語場のことを「定席」と言います。一般的には、昼席と夜席で2回の公演があり、1回の公演に10人ほどの噺家さんが出演。それぞれ持ち時間は15分～30分ほどで、落語だけでなく、色物と呼ばれる漫才、漫談、奇術、紙切りなど様々なジャンルの芸も一緒に観ることができます。

いつでも観られる！ 定席

神戸

こうべしんかいち きらくかん 神戸新開地 喜楽館

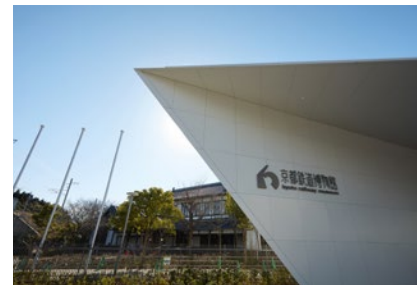
繁昌亭につづいて、上方落語の第2の定席が神戸新開地に2018年7月にオープン。昼は落語の寄席、夜は落語家による落語会のほか、市民への貸し館としても利用されています。昼席の出演者は、繁昌亭と同じく週替わり。若手からベテランまで、存分に寄席を楽しめます。

神戸市兵庫区新開地2丁目4-13
電話：078-335-7088



けいぶんしゃいちじょう じてん 恵文社一乗寺店

京都のカルチャー発信地である名物書店のイベントスペースでは、落語会が開催されることもしばしば。中でも「桂ちょうばらくご会」は月に1回ほど開催されている人気の落語会。左京区出身の落語家・桂ちょうばさんが、若い人にもっと落語を聞いてもらいたいという思いで2017年4月から始まったのだそう。開催日はホームページを要チェック。
京都市左京区一乗寺弘殿町10
電話：075-711-5919



きょうと てつどうはくぶつかん 京都鉄道博物館

2016年春に「鉄道の総合博物館」として開館。実物車両の展示など迫力満点の博物館では季節によってさまざまなイベントが催されています。2019年1月12日(土)には、「旅 Tabi (たびたび) 寄席」と題して、世界でも活躍する落語家・笑福亭鶴笑さんを出演者に迎えた、子どもから大人まで楽しめる落語会が開催されます。

京都市下京区観音寺町
電話：0570-080-462

こんぱ ところ でも！ 京都



にしきや 錦湯

錦市場のすぐ近くにある銭湯・錦湯では、銭湯の定休日(毎週月曜日)に若手落語家を中心とした落語会を開催。月亭大遊さんが、銭湯へ行く感覚で「ふらっ」と落語に来てほしいと、番頭に相談したのがきっかけで2014年にスタートしたそう。
京都市中京区堺町通錦小路下八百屋町535
電話：075-221-6479



きょうごく 京極かねよ

大正末期創業、渋い店構えの老舗うなぎ屋で月に1回ほど2階の座敷で行われている「かねよ寄席」。20年ほど前、故二代目桂歌之助の発案で始まった寄席は毎回大人気。当日券(当日16時から受付)を求める行列ができる。木戸銭(入場券)は特製うなぎ丼がついて2500円とお得です。

京都市中京区六角通新京極東入松ヶ枝町456
電話：075-221-0669

京都 和の文化 体験の日

はじめまして落語

落語を実際に見て、楽しもう！

日時◎2019年2月11日(月・祝)
午後1時30分/午後3時30分
場所◎先斗町歌舞練場
京都市中京区先斗町通二条下る
参加費◎無料
定員◎380名 ※要事前申込

落語の実演

「笑福亭福笑」、「笑福亭たま」の師弟コンビが登場します。お囃子の説明などもあり、はじめての方にも楽しんでいただけます。

出演◎笑福亭福笑、笑福亭たま、桂三葉
お囃子 下座三味線/入谷和女
下座 鳴り物/桂白鹿

第一部

トーク「落語と狂言それぞれの笑い」

今回は、第一線で活躍する落語家の「笑福亭たま」と狂言師の「茂山逸平」のトークを予定しています。

出演◎笑福亭たま(落語家)、茂山逸平(狂言師)

第二部

同時開催

「らく」謎解きあそび
館内に掲示した落語に関連したクイズを読み解いて、プレゼントを手に入れよう(全問正解者、先着100名様のみ)。

日時◎2019年2月11日(月・祝)
午後0時30分/午後1時20分
場所◎先斗町歌舞練場
1階ロビー、2階ロビー 他

伝統工芸ワークショップ 手ぬぐい摺型友禅染体験

落語のしくさでも使用される手ぬぐい摺型友禅染体験ができるワークショップ。当日は、実際に落語のしくさも体験していただきます。京都伝統産業ふれあい館鑑賞ツアーにも参加いただけます。

日時◎2019年2月16日(土)
午後1時/午後3時(計2回、同様の内容)
場所◎京都伝統産業ふれあい館
京都市左京区岡崎成勝寺町9番地の1
参加費◎1200円(実費のみ)
定員◎20名(各回) ※要事前申込
協力◎公益財団法人京都伝統産業交流センター

◎申込方法

京都いつでもコール

TEL 075-661-3755 (午前8時～午後9時)

※おかけ間違いにご注意ください

FAX 075-661-5855

上記URL・QRコードからもお申し込みいただけます。

【お申込み事項】

1 催し名(「はじめまして落語」又は「伝統工芸ワークショップ」)/2 氏名(ふりがな)/3 郵便番号・住所/4 電話番号/5 同伴者の氏名(2名まで、「はじめまして落語」は人数のみお伝え下さい。)/6 参加希望者全員の年齢(申込者、同伴者とも)/7 参加希望時間(伝統工芸ワークショップのみ)

◎申込受付期間

2018年11月22日(木)～2019年1月16日(水)



「はじめまして落語」申込みURL

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000244139.html>



「伝統工芸ワークショップ」申込みURL

<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000244144.html>

市民寄席のご案内

P17でもご紹介した、京都市主催「市民寄席」の開催スケジュールはこちらです。(会場は全てロームシアター京都 サウスホール)

2019年度	2018年度
<p>344回 2019年1月27日(日)</p> <p>開演◎午後1時30分</p> <p>料金◎前売2300円、当日2500円</p> <p>25歳以下 1500円</p> <p>番組・出演◎「つる」桂三度 「む」(こ)みち盗」桂ちやうば 「一番煎じ」桂雀三郎 「狼講釈」露の新治 「EBI」笑福亭仁智</p>	<p>344回 2019年1月27日(日)</p> <p>開演◎午後1時30分</p> <p>料金◎前売2300円、当日2500円</p> <p>25歳以下 1500円</p> <p>345回 5月21日(火)</p> <p>開演◎午後7時</p> <p>料金◎前売1800円、当日2000円</p> <p>25歳以下 1500円</p> <p>346回 7月23日(火)</p> <p>開演◎午後7時</p> <p>料金◎前売1800円、当日2000円</p> <p>25歳以下 1500円</p> <p>347回 9月8日(日)</p> <p>開演◎午後1時30分</p> <p>料金◎前売2300円、当日2500円</p> <p>25歳以下 1500円</p> <p>348回 11月26日(火)</p> <p>開演◎午後7時</p> <p>料金◎前売1800円、当日2000円</p> <p>25歳以下 1500円</p> <p>349回 2020年1月26日(日)</p> <p>開演◎午後1時30分</p> <p>料金◎前売2300円、当日2500円</p> <p>25歳以下 1500円</p>

2019年度市民寄席 年間席札のご案内

市民寄席には、「年間席札」という年5回の2019年度市民寄席の公演全てをお楽しみいただける通し券があります。(毎回公演券を購入するよりも割ほどお得！)

料金◎8000円

販売開始◎2019年1月27日(日)

午前10時～

購入枚数◎1人2枚まで購入可能

販売場所◎ロームシアター京都チケットカウンター、京都コンサートホールチケットカウンターなど

その他◎全席指定となり、ご購入の際に、全ての回の座席をご指定いただけます。(5回共通)
◎25歳以下公演券は、当日、年齢の分かるものを提示いただきます。
◎各公演のチケット発行情報詳細については、決まり次第、ロームシアター京都のホームページでお知らせいたします。
◎未就学児童の入場不可

【主催】

京都市、ロームシアター京都
(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

【お問い合わせ】

ロームシアター京都チケットカウンター
075-746-1320-1

※本冊子の公演情報は、すべて11月末時点のものです。

京都・和の文化体験の日 落語入門の入門

2018年12月発行

京都市文化市民局
文化芸術都市推進室
文化芸術企画課

編集 ミシマ社

監修 高島幸次

表紙イラスト 木下晋也

デザイン いわながさとこ

京都・和の文化体験の日

イベントやお申込の詳細は、TwitterやFacebook、Kyoto Art Boxもぜひご覧ください

Twitter : @Kyoto_wanobunka

Facebook : facebook.com/KyotoWanobunka

Kyoto Art Box <https://kyoto-artbox.jp>



●この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ



市民による自治120年



京都市

2018年12月発行 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化芸術企画課 京都市印刷物第303165号

